

論文内容の要旨

氏名	五十川 雅裕
題名	Comparison of canagliflozin and teneligliptin on energy intake and body weight in Japanese patients with Type 2 diabetes: a subanalysis of the CANTABILE study
(和訳)	
題名	日本人 2 型糖尿病患者におけるエネルギー摂取量と体重に対するカナグリフロジンとテネリグリプチンの比較: CANTABILE 試験のサブ解析
背景	2 型糖尿病患者の血糖コントロールには、SGLT2 阻害薬と DPP4 阻害薬が広く用いられているが、SGLT2 阻害薬と DPP4 阻害薬のエネルギー摂取量や糖尿病関連指標に対する効果の違いは不明である。
方法	本試験は、日本人の 2 型糖尿病患者を対象に代謝因子に対するカナグリフロジン (SGLT2 阻害薬) とテネリグリプチン (DPP4 阻害薬) の効果を比較した CANTABILE 試験のサブ解析である。ヘモグロビン A1c (HbA1c)、エネルギー摂取量、体重などの糖尿病関連指標のベースラインからの 24 週時点の変化をカナグリフロジン群とテネリグリプチン群で比較した。
結果	カナグリフロジン群 75 例、テネリグリプチン群 70 例を解析した。 <糖尿病関連指標> 両群で HbA1c の有意な低下が認められた。体重と HOMA-IR は、TNL 群では有意な変化は認められなかったが、CAN 群では有意に減少した。ケトン体および Ht は、TNL 群では有意な変化は認められなかったが、CAN 群では有意に増加した。各マーカーの変化量については、 Δ HOMA-IR、 Δ 体重、 Δ ケトン体で両群間に有意差が認められた。 <食事関連指標> エネルギー摂取量は TNL 群で有意に減少し ($p = 0.0354$)、CAN 群で増加傾向にあった ($p = 0.0872$)。エネルギー摂取量の変化と体重の関係については、TNL 群ではエネルギー摂取量は有意に減少したものの、体重に有意な変化はみられなかった。CAN 群では、摂取エネルギーは増加傾向であったが、体重は有意に減少した。 <肝機能マーカー> TNL 群では、肝機能マーカーに有意な変化は認められなかった (表 2)。CAN 群では、AST、ALT、 γ -GTP がいずれも有意に低下した (いずれも $p < 0.0001$)。肝機能マーカーの変化量については、 Δ AST、 Δ ALT、 Δ γ -GTP、 Δ Fib4 index の全てで両群間に有意差が認められた。
結論	カナグリフロジンとテネリグリプチンは 2 型糖尿病患者の食事状態に異なる影響を及ぼす。今回の結果から、カナグリフロジンはエネルギー摂取量が増加しても、体重増加することなく血糖管理が可能であることが示唆された。また、CAN は肝線維化の代用指標である FIB-4 指標の改善に良好な効果を示すことが示唆された。